



40人40色 太郎

205学級通信

第71号 2018. 12. 20

とみた うちゅう

道徳講話～富田 宇宙選手のお話を聞いて～

18日(火)の5・6時間目に道徳講話が行われました。

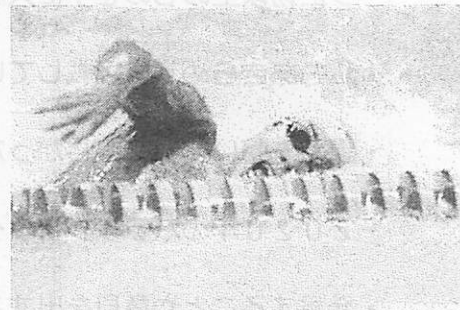
講師は、パラ水泳選手の富田 宇宙選手です。熊本県出身の

富田選手は、3歳で水泳を始めましたが、高校2年より視力が

低下し、卒業時には競技を続けることが難しくなってい

ました。その後競技ダンス、障がい者水泳を始め、現在は

日本体育大学大学院に入学し、パラリンピック出場を目指して練習されています。



みんなの感想

- ・目の見えない人への考え方が変わった。
- ・もし、自分の目が見えなくなったらやりたいことを諦めたし、人生最悪だったと思うけど、富田選手は水泳をやり続けたというところを尊敬します。
- ・今まで、目の見えない人を下に見てしまうことがあったのですが、考え方が変わりました。
- ・生まれつき目が見えないこともつらいと思いますが、見える状態から見えなくなっていく未来を知るのは本当に辛いことなんだな、と感じました。
- ・自分にできないことを考えるのではなく、自分にできることを考えることはとても良いと思った。
- ・「全部プラスにとらえて、自分の生き方をしていく」という言葉が心に残った。僕はいつも自分のミスをマイナスにとらえることが多く、落ち込んでばかりだけど、富田選手の言葉に感動した。
- ・私もみんなから、「できないと思うからあれやっという」とか「やめた方がいいよ」と言われることがあります。できることを一生懸命やって、みんなを驚かせたい。
- ・「自分の全部をプラスにして、生きたいように生きる」という言葉が心に残りました。





- ・富田選手の話聞いて、私にしかない個性とは何か考えてみたところ、ポジティブではないかもしれないけど、心配性なところだと思いました。見方を変えれば、チャームポイントに変えることができ、将来の夢にもつなげられると思った。
- ・今私も悩みが多くて、辛いとか、嫌だとかネガティブになってしまうことがあるんですが、失った物以上のものを手に入れようとする前向きな心に、自分も頑張ろうと思えた。
- ・私もあきらめずに挑戦していきたいと思った。
- ・講話を聴いていて楽しかったです。
- ・2020年のパラリンピックに向けてがんばってください。応援しています。
- ・発言することや意見を出すことが苦手な私も、これからは前向きにやっていきたいと思った。
- ・もしかしたら自分にも思いもよらない事が起こるかもしれない、でも、そこで一生悩み続けるのではなく、何かできることはないか探ることが大切だと思いました。
- ・富田選手は、困っていることや失敗してしまったことを明るく話していて、すごいと思った。
- ・目が見えない人は大変なんだと思った。駅などで困っている人がいたら助けてあげたいと思った。
- ・僕も自分の大好きな水泳で、あきらめずに頑張っていきたい。
- ・一般的にはデメリットと思われるものを自分の「強み」と富田選手が言った時、とても強いメンタルだなと思いました。
- ・障がい者になり、「死にたい」と思っても、生きることを諦めずに大好きなことで世界と渡り合う富田選手に感動しました。どうしたら諦めずに続けられますか？教えてください。
- ・今自分が悩んでいることは、富田選手が悩んできたことに比べたら、あまりたいしたことではないように思えました。
- ・障がい者の人は、自分から進んで何かをやることはできないと思っていたのですが、それは今思うと完全な偏見で、失礼だと思っています。目に見えない人や音の聞こえない人にどのようなサポートが今の自分にはできるか考えて生活したいと思いました。
- ・自分も水泳をやっているけど、目をつむって泳ぐのは難しいのに、すごく速く泳げてすごいと思った。

